

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月2日～9月8日)

2024年9月13日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 「現段階におけるベラルーシ共和国の外交政策の優先分野」と題するリュジエンコフ外務大臣による講話の実施(9月2日)
- ロシアの無人航空機が相次いでベラルーシ領空に侵入(9月3日、4日、5日、7日、8日)
- ウクライナ国境における軍事訓練と爆発音(9月4日)

【外交】

●「現段階におけるベラルーシ共和国の外交政策の優先分野」と題するリュジエンコフ外務大臣による講話

- ・ベラルーシは平和を愛好。欧州の中心に位置しており、欧州大陸における平和・安全・安定の復興に誰よりも関心を抱いている。
 - ・2024年12月に、ベラルーシ・ロシア両国の安全の保証に関する国家間条約に署名する予定。同条約では、核兵器及び通常兵器の使用にかかる原則や、両国を防衛するためのその他の手段につき規定される。
 - ・ベラルーシは「一帯一路」イニシアチブに最初に参加した国の一つで、同イニシアチブに積極的に参加。こうした協力や共同プロジェクトの実施を通じ、多くを得ている。国益を推進するため、その他の大規模プロジェクトにも関わってゆく。上海協力機構(SCO)正式加盟により、SCO加盟国との協力分野を拡大。
 - ・2024年秋にベラルーシにて、「欧州地域における不法移民対策に関する国際会議」及び第2回「ユーラシアの安全保障に関する国際会議」を開催予定。こうした会議への一連の欧州連合(EU)諸国の大臣の参加が既に確定。
- (9月2日 国営ベルタ通信)

【内政】

●抗議行動の関連の受刑者のうち、さらに30名に対する恩赦の発表

- ・大統領令第343号により、抗議行動の関連で有罪とされた受刑者のうち、さらに30名に恩赦。今回恩赦を受けた者は、女性7名、男性23名で、その多くは親で

あつて、未成年者や年齢の低い子どもを持つ者。

- ・シュヴェド検事総長によれば、今次恩赦の対象者は、インターネット上でのコメントにより有罪判決を受けていた人々であった。
 - ・民主勢力は、さらに30名が恩赦されたことを歓迎しつつも、弾圧が依然として続いていることを指摘し、ルカシェンコ体制に対する国際的な圧力を維持するよう呼びかけ。
- (9月4日 大統領府、チハノフスカヤ氏「X」、「ポジルク」)

●9月6日現在の政治犯の数は1,367人

(9月6日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●対ポーランド国境に24時間体制での救急隊を配備

- ・対ポーランド国境検問地点「ブレスト」では、9月3日以降救急隊が配置され、24時間体制で緊急医療支援を実施。
- (9月2日 「ゼルカロ」)

●ウクライナ国境における軍事訓練と爆発音

- ・ウクライナとの国境から12kmに位置するブレスト州南部ストリン市において、特殊作戦軍の将兵や軍用機材が集結して訓練を実施。同訓練につき、地元メディアはSNSで報じていた。
 - ・「ベラルスキ・ハユン」は本訓練につき、ウクライナ軍による露クルスク州への越境攻撃を踏まえたルカシェンコ体制の対応の一つと分析。
- (9月4日 「ベラルスキ・ハユン」)

●ロシアの無人航空機が相次いでベラルーシ領空に侵入

(1)ロシアの無人航空機のベラルーシ領内への侵入

9月3日

・9月3日 2:35 頃、ロシアの「シャヘド」型の自爆攻撃型無人航空機(UAV)1機がベラルーシ領内に侵入。20分ほど飛行後、3時頃には再びウクライナ領へと飛び去った。侵入のあった時間帯には、ベラルーシ軍機の活動は確認されず。

9月4日

・未明 2 時前から 8 時すぎにかけ、ベラルーシ領内に少なくとも 4 機の無人航空機(UAV)が侵入。そのうち 1 機はゴメリ州ゴメリ市付近から同州北部ジロビン市付近まで飛行した後に行方不明となった。

・ベラルーシ軍の戦闘機は、6:20 頃にブレスト州北部バラノヴィチ航空基地より発進し、8 時頃に帰投。

9月5日

・未明 1 時すぎから 8 時前にかけ、少なくとも 8 機の UAV がベラルーシ領内に侵入。

・1:34 頃と 1:36 頃、ロシア軍の防空システムが UAV に対して動作し始め、ゴメリ市南部の住宅地上空において少なくとも 1 機を撃墜。

・9月4日から5日にかけての夜には、ベラルーシ空軍・防空軍の戦闘機がゴメリ州上空を一晩中飛行。5日未明 2:30 頃、ゴメリ州ホイニキ地区上空において UAV1 機が撃墜された。

・ベラルーシ国防省も、UAV による領空侵犯と領空侵犯機の撃墜を認める声明を発出。

・メゼンツェフ・ベラルーシ・ロシア連合国家国家書記は、こうしたことはベラルーシとロシアの動きを止め、国際舞台における両国の役割を貶め、両国の文化を抹殺したいという願望に根ざす、ロシアに圧力をかけるための統一戦略の一環であるとして非難。

(2)ロシアの無人航空機がベラルーシ・リトアニア国境方面まで侵入

・9月6日 23:20 頃から 7日 5:54 頃にかけ、ベラルーシ領に「シャヘド」型の自爆攻撃型無人航空機(UAV)が少なくとも 7 機、また 7日 8:13 頃、ロシアの「スーパーカム(Supercam)」型の偵察型 UAV1機が侵入。

・7日 5:16 頃、ブレスト州南部ピンスク付近から「シャ

ヘド」型 UAV1 機が侵入後、北に約 200km 飛行してグロドノ州中部のコレリチ及びノヴォグルドク付近にまで到達。

・9月6日から7日にかけての夜間には、ベラルーシ空軍・防空軍の戦闘機及びヘリコプターがそれぞれ複数回発進して哨戒。

・ベラルーシ軍機の活動が、ベラルーシ北部の 2 か所で確認されていることから、UAV2 機がベラルーシ北部にまで飛来していた可能性あり。

(3)ベラルーシ領を通過した無人航空機がラトビア領内に墜落

・9月8日、ラトビア国防省は、前日 7 日に同国東部レゼクネ付近にロシアの無人航空機(UAV)が墜落したこと、同機がベラルーシから飛来したとみられる旨発表。

・反体制組織「ベラルスキ・ハユン」は、9月6日から7日にかけてベラルーシに侵入した UAV のうち①1機がベラルーシ北部に到達し、そのままラトビア領内にまで飛行した可能性と、②ベラルーシ北部に到達していた UAV は 2 機だった可能性を指摘。

(9月3日、4日、5日、7日、8日「ベラルスキ・ハユン」、5日国防省、ロシア国営「ロシア・トゥデイ」、「ゼルカロ」)

●ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記は、対ウクライナ国境へ配備されたベラルーシ軍の規模につき発言

・9月8日、ヴォリフォヴィチ国家書記は、「(ウクライナとの国境付近には、)約 1 万 4000 人のウクライナの軍人が集結している。同地域のベラルーシ軍の規模は 4,500 人である」と発言。

・8月18日、ルカシェンコ大統領は、対ウクライナ国境に配備されているベラルーシ軍兵士の規模について、1 万 2,000 人以上である旨発言していた。

(9月8日 国営「全国テレビ(ONT)」、「ゼルカロ」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(9月2日～9月8日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも 59 人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 92 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 690 人を阻止。
(9 月 3 日～9 月 9 日 「ポジルク」)

【治安・犯罪】

●アルメニアは、ベラルーシ人女性を拘束

・9 月 2 日、ベラルーシ人女性は、ジョージア・アルメニア間の国境を越える際に、アルメニア側で拘束された。女性は、ベラルーシ側から、「公共の秩序を著しく損ねる活動の組織及びその準備、もしくはそうした活動への積極的な参加」の罪で、指名手配されていた。

・同日、チハノフスカヤ民主勢力代表事務所のモロゾフ法律顧問は、アルメニアでベラルーシ人女性が拘束されたとの情報を入手し、アルメニア当局に対し、ルカシェンコ政権の違法性と政治的理由によるベラルーシ人の迫害に関する文書を送付。

・9 月 4 日、アルメニア検察庁は、ベラルーシで女性が政治的理由で迫害を受けていたことを認め、女性の移動の制限を解除するよう同国内務省に要請した。

(9 月 2 日、4 日 「ゼルカロ」)

●ミハデュク前エネルギー次官に収賄の罪で 6 年の自由剥奪刑の判決

・9 月 5 日、ミンスク市レーニン地区裁判所は、ミハデュク前エネルギー次官に対し、総額 3 万 5,000 ユーロの収賄の罪で、6 年の自由剥奪刑及び 4 万ベラルーシ・ルーブル(1 万 2690 米ドル相当)の罰金の判決を下した。

(9 月 5 日 国営ベルタ通信)

●リトアニア外務省は、ベラルーシ人コミュニティに対する破壊行為を強く非難

・リトアニア外務省は、同国のベラルーシ人コミュニティに対する、「KGB のシナリオに従って行われた破壊行為」を強く非難。民主的なベラルーシとそのヨーロッパの未来のために戦う自由を愛する人々を心から支持する旨強調。

・9 月 4 日、何者かが、ビリニュスでベラルーシ人キリスト教徒が典礼を行っていた施設に空気銃を発砲。過去にも、誤りのあるリトアニア語でベラルーシ関連の施設に侮蔑的な落書きがなされるなどの事件が複

数発生している。

(9 月 5 日 リトアニア外務省「X」、「ポジルク」)

【民主勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・9 月 5 日、チハノフスカヤ氏は、ロシアの無人航空機(UAV)が複数回にわたってベラルーシ領に侵入していることについて、「ロシアに対し、国境侵犯をやめるよう要求し、ベラルーシの軍事指導部にロシア軍との協力をやめ、我々の土地と国民を守るためにあらゆる手を尽くすよう求める」と述べた。

(9 月 10 日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)